学校評議員による学校運営全般についての評価

平成30年度学校教育目標
自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成

平成30年度の重点
1 よりよい生活・学習のあり方を求め、自ら考え、的確に判断しながら**主体的に**行動(表現)できる生徒を育てる。
2 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。
3 家庭・地域と協働し、三者一体・総ぐるみで生徒を育てるとともに、(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。

今年度学校経営方針「子どもの自主性と共生的な態度を引き出す教育課程の創造」
【5つの柱】
1 言語活動の充実・・授業での実践、特別活動での実践。
2 教職員の協働・・・・目的・目標を全職員で共通理解し、同じベクトルに進む。
3 共生的な態度・・・・互いの価値を認め、支え合い、助け合う態度。
4 小中一貫・・・・・・・・一貫カリキュラムの整備による学力向上、中一ギャップの解消等。
5 人材育成・・・・・・・・教職員の指導スキルとキャリアアップを図る。
【3つの重点活動】
1 自ら課題を見つけ、解決にむけて思考し表現する力やコミュニケーション能力を培うカリキュラムの作成。
2 学校内外で他者に関わる活動、人や地域に貢献する活動を進める。
3 チーム布佐として協同・協働できる組織。

めざす生徒像

①	よりよい生活・学習のあり方を求め、自ら考え的確に判断しながら主体的に行動(表現)できる生徒。
②	互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒。
③	地域を愛し、地域と協働しながら、よりよい社会の形成に向けて参画できる生徒。

めざす学校像

①	学校を核として、家庭・地域と協働しながら、「みんなで創る地域の小中一貫・ふさ学園」
②	先生も生徒も通うことが楽しく、日々を充実した気持ちで過ごせる学校。◎希望の登校(出勤)・満足の下校(退勤)
③	地域コミュニティーの中核としての役割を果たせる学校。

1 学校教育目標について

○本校の教育計画は、生徒や保護者の願いを踏まえ、本年度の重点目標を推進するようになっていたか。

○教育計画は本年度の重点目標を推進するようになっていると思う。

○学校評価のための生徒アンケート及び保護者アンケートを見ても、各項目の「適合度」が全体的に高いことは評価できる。特に思いやりに関する問いや授業の中でのグループ学習に対する高評価は、評価できる。しかし、一方で家庭学習に対する取り組みに対しては生徒の評価と保護者のとで開きがある。家庭学習の重要性については、学校側もあらゆる機会をとらえて訴えているが、その実効性については保護者アンケートの指摘のように厳しいものがある。これからは学校、保護者に加えて地域の教育力が一体となった家庭学習への取り組みが求められていると思う。
　このデータは、学校長が常に指摘している「現在の落ち着いた布佐中の状態」に通じるが、学校ボランティアの高齢者世代から聞こえてきたのは「布佐中の子は真面目で素直。良い子過ぎるのがちょっと心配」の声。さて、この中から「布佐の未来を切り拓く人材」がどれくらい輩出するのか楽しみに待ちたい。

○布佐中生の「地域貢献」と意識が素晴らしいと思う。
　布佐中は校長を中心に教職員が一体化しているので31年度も期待している。また、「子ども学習室」・「塾」との新しい連携も期待している。

○多方面を見据え、教職員をよくまとめ推進されていたと思う。

○現在の布佐中学校は比較的に雰囲気が落いており、学校ホームページの年間閲覧数が20万件を超えている等、保護者等関係者の関心の高さがうかがえる。給食の残菜がほとんどなく、校庭や敷地内には雑草等の繁茂もなく、色々な部分で荒れているところは見分できない。
　しかし、不登校の生徒数増加や部活動も含めた学校の各種行事における保護者の参加数が低迷していることについては、まだまだ改善しなければならないように思う。
　今後も「自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成」という学校目標を掲げて、人間力の高い生徒を育成し続けていければ素晴らしいと思う。

2. 学習指導に関するものについての評価をお書きください。

○本校の学習活動は、生徒の実態や保護者の願いに合ったものになっており、生徒の学力(学習意欲、思考力)を高める取り組みとなっていたか。

○アンケートを見る限り、生徒の7割以上保護者が6割以上が家庭学習に熱心に取り組んでいると感じているところをみると、評価できると思う。ただし、グループ学習に関しては疑問を感じている。学ぶ量の多さを考えた時に非効率ではないのか？かえって子どもたちの学力の差を生むと思う。先生方にいかに興味深い授業をしてもらえるのかが大事なはずだ。

○布佐中が小中一貫のモデル校といして実績を残し、さらにオピニオンリーダーとして学校教育の様々なところで活躍しているのは、学校評議員として高く評価している。重点目標の「家庭・地域と協働しし、三者一体・総ぐるみで生徒を育てるとともに、小学校との一貫教育を推進していく」についても大きな成果を上げてきた。
　各教室で朝学習のベーシックやアクティブラーニングを取り入れた授業、学校図書館活用の推進、活動と協同のある授業実践、さらに定期テスト前、個別学習指導など地道な努力の積み重ねが見られ、直ちに結果には結びつかないにしても、生徒一人ひとりにとって大きな前進となったと思う。
　生徒アンケートの中で「授業の内容は、分かりやすい教科が多いと思う」に対する回答の満足度が低い回答が4分の一の生徒から出ている。この辺の改善が次年度の課題の一つと言えそうだ。

○アクティブラーニングがこんなに生徒に評価が高いとは先生方の努力の賜物だと思う。義務教育の役割は、将来的に自発的に考え、発見、行動する一人の人間を育成する一助となるためのものではないか。
　家庭学習については、生徒の75％が家庭学習の大切さが理解されている。引き続き小中一貫で小学校からの家庭学習の習慣化の大切さをこれからも家庭の理解と協力で頑張ってほしい。

○少しずつであるが、改善され、取り組む姿勢、そしてそれぞれの考察は適確であったと思う。

○教職員・生徒が全校レベルで「活動と協働的な学びのある授業」を推進して教職員が創意工夫のある授業を作り上げていった結果、生徒・保護者からは高い評価を得ることができた。本当に素晴らしいことだと思う。
　これからも予習復習を含めた家庭学習、そして経年において懸案事項である読書活動の習慣化を定着させるために教職員と保護者が一緒に協力し合って、継続的に協議を進めていき、根気強く生徒に説いていくことが必要なのかと思う。

2.生徒指導に関するもの

○家庭や地域と連携を図りながら、生徒の健全育成(他を思いやる心・貢献)の取り組みがなされていたか。

○全体としてはできていると思う。

○学校側の「生徒の健全育成」に対する姿勢を高く評価したい。また、我々ボランティアが校内で生き生きと活動している姿も、生徒の「他を思いやる」の育成に貢献しているとしたらうれしい限りだ。

○生徒の健全育成については、教職員・生徒には安心して通える学校という認識があるが、保護者の評価は低い。保護者会での説明等が必要かもしれない。
　登下校時の生徒のあいさつは、1年生がまだ慣れていない状態、しないでも良いと思っている様に見受けられる。ただし、学校で生徒と会ったときは、生徒の方からあいさつしてくれる。
　学校を訪問した時、校長をはじめとして教職員の挨拶、応対が素晴らしい。

○教職員の方々が多忙な中、よく努力していると思う。家庭（保護者）対策については、本当に難しいとは思うがいろいろな方々の知恵を借り、学校全体で取り組んでほしい。

○いじめの無い学校作りという点では、全体的に高い評価を得てはいるものの、25％は「そうは思わない」という方がいるため、今後も継続的に”いじめゼロ”の推進に取り組み、併せて広報も実施し、「希望の登校、満足の下校」の実現に向けていければと思う。
　登下校時の挨拶については、時間帯や場所によって賛否両論があるところだが、小中高と地域で実施する「あいさつ運動」等を通して、それぞれが顔の見える関係を構築していき、同活動のアピールも含めて、健全な心の育成と地域に貢献することの喜びと感謝の気持ち等を感じてもらうことができれば、生徒たちの今後にとって、素晴らしいものになると思う。

3. その他、小中一貫教育推進に関すること等、学校教育全般について

○小学校から中学校への移行がスムーズになり、子どもたちの不安を少しでも軽減できることは良い取り組みだと思う。しかし、私立と違い学校長が数年で交代になりできることは限られてくるのではないか。

子どもの特性をきちんと時間をかけて見極め、長所を伸ばしてあげられる環境を整えることが「小中一貫教育」だと考える。また、小学校間の学力の差があまりにも顕著で、早急の対策が必要だと思う。

○我々地域ボランティアに対して、学校長をはじめとして教職員が温かく迎えてくれるのには感謝している。多くのボランティア仲間も同様の雰囲気を感じつつ行動してくれている。

小中一貫教育については、布佐3校の間の微妙な温度差が気になった。同運営協議会を開いても、個人的には十分な時間が確保されずに消化不良で終わってしまうケースがあったと感じる。

しかし、時代の流れの中で小中一貫教育は後戻りできないテーマとなっているので、私も布佐中代表メンバーとして今後もベストを尽くし、「みんなで創る地域の小中一貫・ふさ学園」の実現を目指して、前向きに頑張りたいと決意している。

○学校支援ボランティアは、各年代の人が登録し楽しんで活躍している。学校が我々に活躍の場を開放してくれたことに住民は感謝している。

地域と共に小中一貫教育の推進を図っていることに、地域でも82%が認めていることを評価したい。

○3校で足並み揃えてというのは、なかなか難しいと推察する。教育委員会事務局の対応が、やはり問題だと思う。

○当アンケートの回収率を保護者、生徒、そして地域共に100%を目指し、本校への関心を更に向上させていくことができれば、より正確な統計を出すことができ、今後の教育指針や学校運営等にとても良い参考資料ができあがるのではないかと考える。

従前より実施されているふさカリキュラムや布佐タイムの効果により地域との連携が認識されていて、布佐中学校生徒の低非行率にも繋がっている様に考察する。

地域ルームの活用や学校支援地域本部事業の活動が少しずつ浸透し定着してきている現在、教職員や生徒、保護者からも評価され、認められてきているため、今後も「みんなでつくる地域の小中一貫・ふさ学園」の構想に向けて推進していければと思う。

布佐の子どもたちは、学生時代を経て、大人になる頃には布佐を離れる人が少なくない。色々な面で不便だとか、魅力があまり無いからみんな離れて行ってしまうのかもしれない。

みんなでアイディアを出し合い、国や地域の宝である子どもたちにとって、また若い世代の人たちにとって、魅力のある布佐の街をみんなで創り上げて、「この街に住みたい！」と思える街を創り上げることができたら、こんなに素晴らしいことはないと思う